



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 2002 Number 4

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

R.Y. Osamura, M.D. (03)
Tokai University

PAST PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (03)
Jikei University

PRESIDENT-ELECT

T. Morohoshi, M.D. (03)
Showa University

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (03)
National Defense Medical College

COUNCILLORS

S. Mori, M.D. (02)
University of Tokyo

H. Hashimoto, M.D. (02)
University of Occupational and
Environmental Health

T. Manabe, M.D. (03)

Kyoto University

M. Tsuneyoshi, M.D. (03)

Kyushu University

Y. Kato, M.D. (04)

Cancer Institute

K. Mukai, M.D. (04)

Tokyo Medical University

COMMITTEE CHAIR

Education

N. Nemoto, M.D. (03)

Nihon University

Finance

H. Yamabe, M.D. (02)

Red Cross Wakayama Medical Center

Nomination

S. Ushigome, M.D. (03)

Jikei University



「IAP日本支部結成40周年記念学術集会」開催

第48回日本病理学会秋期特別総会が2002年11月14-15日に岡山大学赤木教授を会長として開催され、15日の夕方から「IAP日本支部結成40周年記念学術集会」が開催された。17：20-18：20の間、場所は岡山市民会館で、長村会長と松原が進行のもと、講師 赤木忠厚教授（岡山大学大学院医歯学総合研究科腫瘍制御科学専攻病理・病態学）「悪性リンパ腫診断におけるpitfall」、講師 諸星利男教授（次期会長・昭和大学医学部第1病理）「脾囊胞性病変の病理」の二人の素晴らしい講演が行われた。その後直ちに大型バスにて移動の後、ホテル・グランピア岡山にて40周年記念リセプションが開かれた。200人を予定したが、参加は約100人であった。長村会長の挨拶の後は、有り余るご馳走と美酒に歓談が続き、今回何かとお世話になった岡山大病理の教室員の紹介、現理事役員の挨拶、森 茂郎理事の美声の披露などがあり、2時間の楽しい会が終わった。

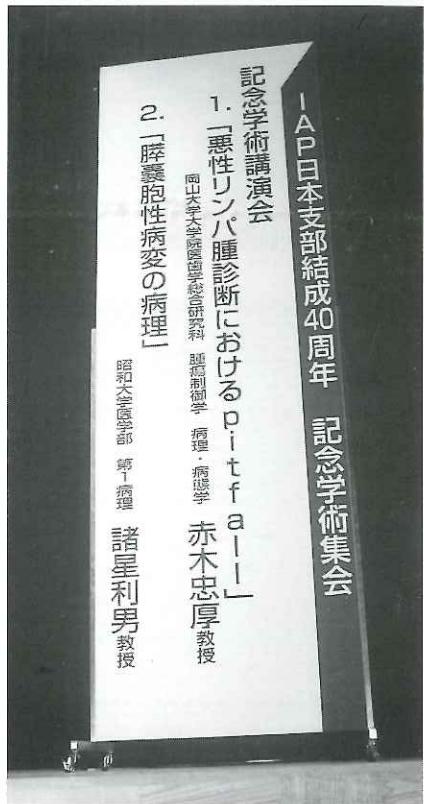
「2002年度IAP日本支部

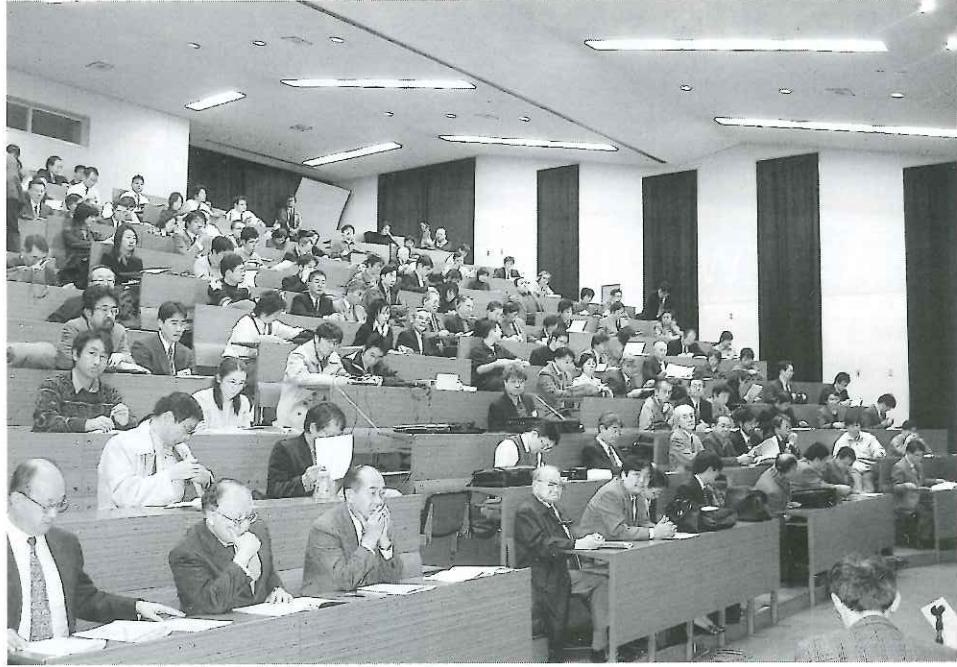
教育セミナー」開催

岡山市民会館の会場

赤木忠厚教授（岡山大学大学院医歯学総合研究科腫瘍制御学講座／病理・病態学分野）の世話人のもと、11月16日（土）9：00-17：15の間、岡山大学医学部の講義室をお借りして教育セミナーが開催された。

お世話になった岡大病理学教室の赤木先生と皆様





シンポジウム会場風景

教育シンポジウム：「病理標本から見た感染症」9:00-12:00

モダレーター：向井 清（東京医科大学）
根本則道（日本大学）

- 組織切片における病原体の検出
堤 寛（藤田保健衛生大学）
- 病理標本で見る寄生虫
安治敏樹（岡大院医歯学総合研究科免疫分野）
- 新興・再興感染症（HHV-8関連病変を含む）の病理
佐多徹太郎、倉田 豊（国立感染症研究所）
- Virus associated hemophagocytic syndrome
定平吉都（川崎医大）
- 日常診療におけるAIDSの病理
船田信顕（都立駒込病院）
- ヒトプリオニン病の病理像
堂浦克美（九大院医学研究院附属脳神経研）

立派なハンドアウトも作成され、参加は177人でした。各演者の素晴らしく、外科病理でもすぐに役に立つ講演に参加者は大変有意義であったとの感想が多かったです。モダレーターの先生、講師の先生方、有り難うございました。ハンドアウトの予備が事務局に少し残っているのでご希望の方には1部2,000円にて販売しておりますので、ご連絡下さい。

◆◆◆◇◆◆◆◇◆◇◆◆◇◆◆◆◇◆◇◆◆◆◇◆◇◆◆◆◇

IAPスライドセミナー

第1時限目 13:00-15:00

- * A-1. 脳実質腫瘍： 中里洋一（群馬大）
* B-1. 悪性リンパ腫の病理： 田丸淳一（埼玉医大）
C-1. 乳腺の病理と細胞診：
土屋真一（長野がん検診・救急セ）
D-1. 精巣腫瘍： 森永正二郎（北里研究所病院）

第2時限目 15:15-17:00

- * A-2. 胸腺上皮性腫瘍： 向井 清（東京医大）
* B-2. 前立腺の病理： 三上芳喜（東北大）
C-2. 骨の病理： 野島孝之（金沢医大）
D-2. 腎の病理： 田口 尚（長崎大学病理）

*は新規コースです。相変わらず参加者の熱心な勉強態度にも、また熱心に講義される各コースの講師の先生方、大変ご苦労様でした。特に、今年度終了する腎（腎生検を含む）の病理を担当された田口 尚先生（長崎大学病理）、乳腺の病理と細胞診の病理を担当された 土屋真一先生（長野県がん検診・救急セ）、3年間有り難うございました。
www www www www www www

赤木忠厚先生にIAP日本支部功劳賞

岡山大学大学院医歯学総合研究科腫瘍制御学講座／病理・病態学分野／旧病理学第2講座赤木忠厚教授に対して、日本支部の理事（1996-1998年）、



長村会長から赤木教授へ表彰状

理事指名委員（1999-2001年）として、2002年11月15日岡山市民会館で行われた支部結成40周年記念学術集会においては特別講演を、また11月16日岡山大学医学部で行われたIAP日本支部教育セミナーにおいては世話人として等、IAP日本支部の発展のために長年にわたって多大な貢献をされたことから表彰を行った。
www www

『IAPの会長に就任して』

本部会長・日本支部前会長 牛込新一郎

本年10月アムステルダムで開催された第XXIV回国際会議のBusiness Meetingにおいて、会長就任式が行われました。Past PresidentとなられたStephen Vogel先生を引き継いで会長メダル(Presidential medal)と会長木槌(Presidential gavel)を頂く(二年間の持ち回り)ことができました。光栄であり嬉しくもありますが、正直のところ今後の2年間とその後のPast Presidentを合わせて4年間大変だと感じています。IAPの100年近い歴史の中で、アジア地区から初めての会長ということも

あり、責任の重さを痛感しています。会長は選挙によるものではなく、歴代の会長4名と常任幹事が入って指名委員会を構成し、ここで選ぶことになり、理事会で承認され、総会で報告されて、その翌月から就任することになっています。理由を考えますと、日本支部の役員の方々（先輩も現在も含め）の国際でのご活躍、会員の方々の国際会議での研究発表などの活躍の幅が広がったこと、さらに名古屋国際会議の成功（日本病理学会のご協力など）があって、日本の評価があがり、日本からということになったものだと思います。

会長の役割はIAPの使命である病理学（診断、研究、病理技術などについて）を国際協力のもとにレベルアップをはかり、支部における教育活動を推進、バックアップすることあります。その為には、在任中にできる限り大陸単位、地域単位、幾つかの支部との交流をはかり、参加し、要請に応じて関係委員会 Education Committee（委員長はKrinsin Henry）と Finance Committee（委員長はWilliam Gardner, Jr.）で検討のうえIAPとして経済的補助を行うことになっています。この場合、発展途上国への理解と協力、援助などが話題となります。決して容易なことではないようです。新しい支部を推進することもIAP本部の役割ですが、経済不況のため本部への会費も納入できない支部もありますし、悩みの一つになっております。IAPはapolyticalな任意学術団体でありますので、政治的なことは関係ない筈であります。しかし、例えば、中国支部と香港支部が現在でも分かれて存在していますが、もし台湾が支部を組織したいと仮定すると、容易に承認してよいか否かが問題となるかもしれません。

会長のその他の役割は理事会の司会、国際会議の開催場所の視察などがあります。常任幹事のFlorabel Mullick先生が二期目に入り、ベテランでありますので、連絡を密にして行動したいと考えております。

最後に、IAP国際会議、米国・カナダ病理アカデミー総会、その他の地域での病理会議などで一層ご活躍いただけけるよう日本支部会員の皆様方のご協力をお願いいたします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
『会長メダルと会長木槌の由来について～IAPの歴史をふまえて～』

本部会長・日本支部前会長 牛込新一郎

会長メダルは写真のごとくの金メダルであるが、現在のものは金箔で被われたレプリカである。表には例のIAPのロゴマークがあり、裏面にはPresented by F.K.Mostofiと記名されている。本来のものはF. Kash Mostofi先生がメキシコで買い求めたsolid gold製であったが、不幸なことに、中米で開催された国際会議（メキシコ市かと思われる、1970年）の会期中に盗難にあったと言われる。会長就任時あずかり、修了時には次の会長にお渡しすることになっています。ユニークといえば、メダルとともに木箱に入っている木槌かと思います。この木槌は由緒あるもので、Washington DC のdowntownにあったArmy Medical Museumの建物が現在のAFIPの玄関脇に移転する際に、その建物の古い木材を用いて作られ、1985年Dr. F.K. Mostofi (IAP初代の会長)から寄贈されたものであります。筆者も1965年にこのMuseumを訪れたことがあります、脛骨の慢性骨髓炎（骨癌）の標本がすばらしかったのを記憶している。

IAPは1906年IAMM(International Association of Medical Museums)が母体となってスタートしたもので、これに

はカナダのMaude Abbott女史 (McGill University)、Washington DCのJames Carroll少佐、ボルチモアのW.G. MacCallumの3人がArmy Medical Museumで初会合をもつたのに始まった。1907年に最初の正式な会議がもたれた。その時、かの有名なWilliam OslerもIAMMの創設に重要な役割を果たしたとされている。2006年にトロントで開催予定のXXIV国際会議はIAP100年の記念にあたる。1969年にIAMMは正式にIAPと改称され、会則が新たに制定されたのである。IAPはAFIP(Armed Forces Institute of Pathology)と密接な関係にあるのは、このあたりの事情によるものでF. K. Mostofi先生がIAPに深く関わったり、AFIPの重責を担っているFlorabel Mullick先生がIAPの常任幹事を務めるのも頷ける所である。
▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△

The 3rd IAP Asia Pacific Meeting Theme: Pathology Beyond Frontiers

2003年01月21—23日に、Bangkok, Thailandで開催される。これまでJapan-Korea-Hong Kong-Australia (JKHKA)として開催されて来たアジア-オーストラリアの学術集会が名前を変えて、the 3rd Asia-Pacific IAP Congressとして開催されます。

Website: IAP2003.com

wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

第9回タイー日本細胞診ワークショップ 世話人：日本医大附属多摩永山病院病理部 前田 昭太郎

<http://www.jscct.gr.jp/2002/link_20020130_2.htm>

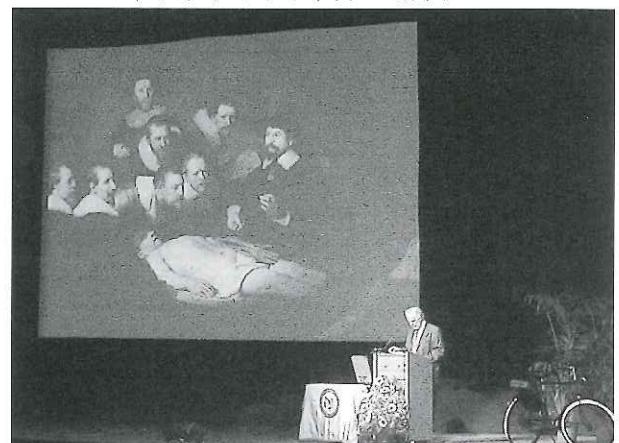
The Third IAP Asia Pacific Meeting が 2003 年 1 月 21 ~ 23 日にタイ国の Bangkok で開催されることになりました。なおご不明な点に関しましては、遠慮なく前田宛にご質問ください。メールアドレス : s-maeda@nms.ac.jp Tel. : 042-371-2111(EXT 290)

wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

IAP国際会議アムステルダム2002に出席して 会長 長村義之

10月6日から10日までXXIVth International Congress of the International Academy of Pathology(IAP)が IAP英国支部の主催でオランダのアムステルダムで開催されました。学会会長は、オランダのDr.Jan van den Tweelで、会場はRai Congress Centerで行われ2000人を越え、全90カ国が参加があったと聞いています。参加者名簿が配布されていないので詳細は不明ですが、日本からも同伴者を加えると100名以上の方が参加されていたのではないか

レンブラントに関する講演





Amsterdamを讃えるchorus

いかと思われます。今回は、例年に比しプログラムが一日早く始まり、6日の日曜日の朝8：30から一斉に開始されました。私もこの8：30からのセッションShort courseを担当しており、PCによるプレゼンテーションなど始まるまで気がかりでしたが、実際は手際よくスムーズに進み安心しました。そのほかの進行も順調であったのではないかと思っています。参加された会員の方々もScientific sessionに出たり、ロビーで旧交を温めたりでお忙しかったのではないかでしょうか。初日の夜は、開会式があり会長の挨拶のあと、レンブラントに関する講演がありました。余興では、レンブラントの夜警（Night watch）の衣装をまとったバンドが入場し、最後は舞台の上で夜警さながらの配置で満場の喝采を得ていました。その後、Indonesian buffetの会食があり、参加者は皆楽しいひと時を過ごしました。全5日間の学術



Amsterdamの風景

非常に古く、ご存知のように日本の医学とは関係の深い国です。ライデンのBoerhaave博物館には、Leeuwenhookの開発した顕微鏡が展示されており、われわれ病理学に携わるものとして心惹かれます。そのほか医学に関係する機器も含め、れどガラティに富んだ発明機器が陳列されており、目を見張るものがありました。

8日（火曜日）の夜には、IAP日本支部40周年の記念行事の一環として、これまで日本支部の発展を長年応援してくださったDr.Jack StrongとDr.Robin Cookeをお招きし、感謝状などを差し上げた後、食事会を催しました。ご出席は、Dr.Jack Strongご夫妻、Dr.Robin Cooke、

牛込新一郎IAP会長、円城寺先生ご夫妻、鈴木実先生ご夫妻、森茂郎理事・日本病理学会理事長、諸星利男次期会長・松原修常任幹事、根本則道教育委員長、山邊会計監査ご夫妻、橋本洋理事ご夫妻、それに私の家族で実に楽しい会食のひと時を過ごさせていただきました。

10月5日のCouncil meetingで、牛込前会長が12月1日よりIAPのPresidentに就任されることが確認され、また私も皆様方のご推薦でVice President from Asiaに選ばれました。今後とも宜しくご支援のほどお願いいたします。今後の予定ですが、国際学会は2004年10月10日—14日、2006年はIAP100周年記念でカナダのモントリオールで開催されることになっています。また、Council meetingで、2008年はギリシャのアテネで開催されることが決定されました。また、2003年の1月22日—24日にはthe 3rd Asia-Pacific IAP Congressがタイのバンコクで開催されます。4th Asia-Pacific IAP Congressは中国のBeijing(北京)で開催されることが本会期中に決定されました。Congress Secretariatの連絡先など、このNews Bulletinに掲載されていると思います。皆様奮ってご参加ください。IAP日本支部からも、若い会員の先生方に出席していただきたいと思っています。そのために、会員の皆様におはかりしてTravel grantを出しては如何かと考えています。その節は宜しくお願ひ申し上げます。アムステルダムの会議に参加された皆様、大変ご苦労様でございました。皆様方が仕入れられた情報、新旧の国際的な友人関係などをフルに活用され更にご活躍されますように祈念しております。以上をもちまして、国際学会参加報告とさせていただきます。



レンブラントの夜警

プログラムでは、IAP日本支部の会員の先生方が、さまざまなセッションで講演され活躍されているのを拝見いたしました。Keynoteレクチャーでは、Dr.Kempによる“Surgical Pathology-is it the end?”、Dr.Underwood(わが国でも病理学の教科書で有名)も病理学の一般社会における受けられ方(Publicity)などを問題にした講演で、万国共通の課題が浮き張りにされました。Dr.Kempの最後のスライドは、“Don't sell your light microscope!”であり、会場は拍手喝さいでした。

アムステルダムは、芸術の町でもあり、レンブラントの家(博物館)、国立博物館(夜警を展示してある)、またゴッホ美術館などを楽しまれた方も多いのではないかと思います。また、オランダは、学術的な歴史も

The 92nd Annual Meeting of USCAP
March 22-28, 2003
Marriott Wardman Park, Washington, D.C.
Website: www.uscap.org

IAP Argentina参加記

癌研病理部長 加藤 洋理事

2002年4月5、6日にBuenos Airesにて行われたIAPアルゼンチン支部会に、渡辺英伸新潟大学教授と参加した。会長は、IAP南米・アルゼンチン支部のVice PresidentであるProf. Eduardo Santini ARAUJO（骨軟部腫瘍が専門）である。はじめてお会いしたが、mustacheを貯えた中肉中背のgentlemanである。本会は、元来2001年9月15～19日に開催されていたはずであったが、例の9-11事件で延期になってしまったものである。

学会場風景



Buenos Airesの夜

あの時は、牛込新一郎先生はすでに中止になっていた本会にそれを知らずに出席（？）してしまったのである。我々も、先方から中止の連絡が来るまでは、飛行機が飛べば出席しようか、いやこんな時に行くべきでない、の2つの可能性の間を気持ちが揺れて、大いに苦しんだのを覚えている。

BAの4月はまだ夏の余韻が残っていて少し蒸し暑かった。公園や街路にBorracho（酔っぱらいの木）のピンクの花とJacarandaのブルーの花が目立ったが、盛りは過ぎていた。会場は町なかのMilitary hospitalの倉庫見たいなところ、舞台もにわか造りのステージ、窓には外から光りが入らないよう幕が張られていたのが印象的で

あった。約250人が参加していたと思われるが、皆熱心でよく質問していた。経済状態が良くなく、学会の開催・参加は大変らしい。皆でお金を出し合って、世界中から少しづつ講師を呼んでは、Surgical (Diagnostic) pathologyの最先端を聞こうということらしい。今回は、消化管、骨軟部、婦人科、皮膚科を中心であった。渡辺先生は、炎症性腸疾患（IBD）と消化管リンパ腫（特にMALT type lymphoma）の2小間、小生は、大腸のflat tumorと胃上皮の再生・腫瘍の鑑別の2小間を担当した。さらに、症例検討会にも引っぱり出されて、われわれは時差ぼけを感じる間がなかった。骨軟部の大家、Prof. Unni (Mayo Clinic)、婦人科病理のProf. Wold (Mayo Clinic)も呼ばれていた。参加者の中には、かつてJICAのGI Pathology Course（中村恭一先生主導、その後小池盛雄先生主導）に参加したDr.がかなり居てい旧交を温めることができたのは嬉しかった。最後に、そのCourseに参加していた一人であり、われわれ家族ぐるみでケアをして下さったDr. Santiago de ELIZALDEに深謝したい。

XXV Congress of the IAP 10 - 15 October, 2004 Brisbane, Australia

2002年度第3回理事会議事録

日時：平成14年11月14日（火曜日）12:10～13:10

場所：岡山市民会館302会議室（学会場内）

出席者：長村、森、橋本、真鍋、恒吉、加藤、赤木、根本、山邊、松原、佐々木洋子（事務局）
欠席者：牛込、諸星、向井

議題について

特別報告事項：

1. 教育セミナーの会場について：赤木忠厚教授に大変お世話になっていること
2. Amsterdam Congress 2002年にて：
牛込前会長が本部IAPのPresidentに就任
長村会長が本部IAPのVice-President (Asia)に就任

報告事項：

1. 庶務報告のこと（下記）
2. 日本支部結成40周年記念学術集会とりセプション
15日17:20-18:20、岡山市民会館にて結成40周年記念学術集会

19:00- ホテルグランビアにてレセプション
学術集会の内容：

講師 赤木忠厚教授：「悪性リンパ腫診断におけるpitfall」

講師 諸星利男次期会長：「脾嚢胞性病変の病理」

岡山市民会館からの移動について、赤木先生がバスを用意して下さるが、迅速に行わなければいけない

3. 教育シンポジウム：「病理標本から見た感染症」

モダレータ：向井理事、根本教育委員長

4. スライドセミナーについて：新コース
悪性リンパ腫（田丸淳一、埼玉医大総合医療センター）

前立腺の病理（三上芳喜、東北大）

縦隔腫瘍（向井理事）

脳腫瘍（中里洋一、群馬大）

5. The 3rd Asia Pacific IAP Meeting

2003年1月21-23日 Bangkok, Thailand.

01月25-26日 第9回タイ－日本細胞診ワークショップ、ビーチ・リゾート Hua Hinで、世話人：日本医大附属多摩永山病院病理部・前田昭太郎先生

病理診断学術奨励賞選考委員長報告

(真鍋俊明委員長)

IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞の選考結果：
黒田直人、小田義直、三上芳喜先生の3名

◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇

2002年病理診断学術奨励賞の表彰式

黒田直人殿(高知医科大学第1病理)：Expression of CD9/motility-related protein 1 (MRP-1) in renal parenchymal neoplasms: Consistent Expression in papillary and chromophobe renal cell carcinomas. Hum Pathol 32:1071-7, 2001

小田義直殿(九州大学大学院医学研究院・形態機能病理)：Pleomorphic leiomyosarcoma. Clinopathologic and immunohistochemical study with special emphasis on its distinction from ordinary leiomyosarcoma and malignant



三上、黒田、小田先生、真鍋委員長、山邊副委員長

fibrous histiocytoma. Am J Surg Pathol 25:1030-8, 2001

三上芳喜殿(川崎医科大学附属病院病理部、現在東北大
学大学院医学系研究科病理形態学分野)：Lobular
endocervical glandular hyperplasia is a metaplastic process
with a pyloric gland phenotype. Histopathology 39:364-72,
2001

上記3名の先生方に表彰状と10万円の副賞が贈られた。

◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇

常任幹事報告（松原）

1. 庶務報告（略）

2. 2002年決算と2003年予算（同封）

3. 2003-2005年度任期理事選挙結果

任期満了理事：森 茂郎、橋本 洋

理事指名委員会による指名候補者：橋本 洋、中村栄
男、佐野寿昭、笹野公伸の4人であった。

新理 事：橋本 洋、中村 栄男

4. 2003年度役員の改選

現 会計監事：山邊博彦

次期会計監事：山邊博彦

現 理事指名委員会：牛込新一郎（委員長）、鈴木
実（副委員長）、丸山孝士、社本幹博、山邊博彦

次期理事指名委員会：牛込新一郎（委員長）、鈴木
実（副委員長）、社本幹博、山邊博彦、森 茂郎

5. 教育シンポジウム（略）

6. 各種Award のノミネート（略）

7. 2003年の教育セミナーの会場

加藤先生が秋期病理学会の世話人。IAPの会場は信濃

町の東医健保会館

教育委員長報告（根本）

1. スライドセミナーについて：新コース
悪性リンパ腫（田丸淳一、埼玉医大総合医療センター）
前立腺の病理（三上芳喜、東北大）
縦隔腫瘍（向井理事）
脳腫瘍（中里洋一、群馬大）

2. 教育セミナー（シンポとSS）への参加費について
会員と非会員の区別について2002年度第3回理事会
議事録の7を参照のこと

◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇◆◆◇△◇

会計監査報告（山邊会計監査）問題なしのこと

ww

事務局よりお願い

1) 年度会費納入のお願い-----

同封の郵便局での振り込み用紙
で年会費4,000円ほどお振り込みく
ださい。

2) 購入希望雑誌の申し込みをお忘れなく-----

Laboratory Investigation and/or
Modern Pathologyの雑誌の購入希望
用紙も送り返して下さい。
Laboratory Investigationの市場価格
(年間)：43,500円に対してIAP会員
(年間)：12,000円、Modern
Pathologyの市場価格(年間)：31,
200円に対してIAP会員(年間)
：12,000円です。英語の氏名、住所な
ど明瞭に書き込んでファックスにて
送り返して下さい。不明瞭です
とアメリカからの雑誌の送付が危
うくなります。購入代金は現金書
留にて事務局まで送って下さい。

雑誌購入の締め切りは平成15年1月21日まで、代
金の送付は1月末締め切りでお願いします。

Laboratory Investigation : 12,000円
Modern Pathology : 12,000円
US\$US\$ 1ドル=123円とみています

3) 2001年度の教育シンポジウムとスライドセミ
ナーのテーマについてのアンケートにご協力を

同封のアンケート用紙をファックスにて送り返して
下さい。

4) 新入会員の募集について

IAP日本支部では、まだ会員となられていない方々の
入会をおすすめいたします。必要なとき会員申込書を
事務局までご請求下さい。

あとがき：2002年度第4号をお届けします。同時に
(1) 2002年度決算、(2) 2003年度予算表、(3)
2003年度会費納入の振込用紙、(4) 雑誌購入希望用
紙、(5) 教育シンポジウムと、(6) スライドセミ
ナーのテーマのアンケート、(7) Brisbane Congress
2004のfirst announcementを同封します。皆さんよいお正
月をお迎え下さい。会員の皆様にとって輝ける素晴らしい
2003年でありますよう。

常任幹事：松原 修/事務局：佐々木洋子
〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2

P: 042-995-1507 / F: 042-996-5193

E-mail:matubara@cc.ndmc.ac.jp